

～下田のデキゴト～



3/27 お吉を偲ぶ

お吉の命日であるこの日、お吉ヶ淵と宝福寺において、法要が営まれました。お吉ヶ淵では読経に続いて華やかな芸者衆が池に献花し、最後にお吉と鶴松に見立てた2匹の錦鯉を放流し、二人の冥福を祈りました。



4/2 アメリカでの体験を市長に報告

下田高校生24名が姉妹都市米国ニューポート市などでの海外研修を終え、3名の生徒が代表して市長へ自身の体験したことなどを報告しました。この経験は生徒たちの今後に大きな影響を与えたことと思います。



4/9 消防団入団式

消防団入団式が下田中学校体育館にて行われ、新入団員14名を含む、90名が出席しました。防火啓発活動など、地域の安心・安全のため重要な役割を担っており、皆さまのご活躍を期待しています。



4/2「美と出会う。伊豆」

伊豆急行と上原近代美術館が蓮台寺駅のネーミングライツスポンサー（副駅名権）契約を締結し、「美と出会う。伊豆」という副駅名が付けられました。市役所の最寄り駅となる蓮台寺駅、多くの人に見られることでしょう。



4/9 能登半島地震に係る派遣職員報告会

能登半島地震に関して、石川県内の自治体へ延べ11名の職員を派遣し、被災地の支援活動に従事してきました。職員及び議員を対象に、被災地に派遣された職員による活動内容の報告会を開催しました。



4/12 交通事故防止に努めます！

下田警察署において、安全運転管理推進事業所指定証交付式が行われ、令和6年度の事業所に下田市役所が指定されました。これからも交通安全の意識を高め、交通事故防止に取り組んでまいります。

**4月の
できごと**

- 1日 年度始め式（市役所）
- 2日 入園式（下田認定こども園）
- 8日 入学式（市内小中学校）

- 8日 春の全国交通安全運動 早朝一斉街頭指導
- 10日 米国国務省日本語研修所研修生等表敬訪問
- 18日 令和6年度行政協力委員会議（前期）

地域子育て支援センター通信

問合せ先 地域子育て支援センター ☎02200



6月の予定

- 1日(土) 開館日
- 3日(月) 交通安全教室 10:30～
- 5日(水) かえるのカスタネット製作
- 6日(木) かえるのカスタネット製作
- 10日(月) 体育館で遊ぼう
- 12日(水) 市民スポーツセンター 9:30～11:00
- 14日(金) 入園についてのお話 教育委員会 10:30～
- 15日(土) 敷根公園で遊ぼう 9:30～11:00
- 15日(土) 開館日
- 17日(月) 体操教室 講師 鈴木理里先生
市民スポーツセンター 10:00～11:00
- 19日(水) 下田認定こども園交流 9:30～
- 21日(金) 親子で楽しい知育ヨガ
講師 村瀬勸子先生 10:30～
- 24日(月) 発育測定・育児相談、保健師講話
保健師、栄養士来所
- 26日(水) 誕生会 10:30～
- 27日(木) 歯のお話 10:30～

予定が変更になる場合があります。
詳細は、支援センターまでお問い合わせください。



大きくなったねの会
「おおきなかぶ」



誕生会

爽やかな風が心地よく、戸外で過ごすことが気持ちのいい季節になりました。この時期には戸外にお散歩に出かけ草花や土、虫などの春の自然にたっぷり触れるのも楽しいですね。

子育て支援センターでは、ひとつ大きくなったお友達に加え、新しいお友達も少しずつ増えてきています。親子で一緒に遊び、ゆったりとした時間を過ごしていただければと思います。気軽に遊びに来てくださいね。



体育館で遊ぼう



楽しみパフォーマンス

**こんにちは、市長です
「8つ目の青春」**

今回はさだまさしの曲「8つ目の青春」(S60)のお話です。歌詞が味わい深いので、「ぼく(主人公)」は「先輩」を尊敬している。何度女の子にふられてもそれを勇気とエネルギーに変えて立ち直るからだ。ただ、先輩はふられるたびにクルマを大きくするという妙な癖がある。最初はバイク、次が乗用車と少しずつ大きくなって、7つ失恋をした今は2t車に乗っている。先輩は、ふられると必ず東名の用賀インターにぼくを呼び出しては傷心旅行につきあわせる。でも、無口で照れ屋で、涙もろくてまぬけだけど強くて優しい先輩がぼくは大好きだし、そんな彼の魅力に気づかない「女たちはバカか？」と不思議だ。そんな先輩が8つ目の恋をした。

今度こそうまく行きますようにとぼくはひたすら祈っていたのに、半年経たずにいつもの場所に呼び出される。午前五時の用賀インター、旅仕度して待っていると、朝霧の中現れたのは4t車。あ、やっばりと肩を落とすぼく。しかしよく見ると助手席にはなんと8つ目の青春が乗っている。わあっと大喜びするぼくに、先輩は頭かきかきちよっと行ってくるからよと彼女と高速に乗っていく。最後の歌詞は特に美しい。ぼくがバンザイと叫んで「4t車の背中にキッス投げ振り向けばほんの少し寂しそうなぼくの荷物越しに蒲田方面から朝の陽射し」先輩想いのぼくの優しさに加え、作者(さだまさし)のぼく(つまり私たちすべての人々)への優しさが朝日に例えて歌われ、私はつい泣けてしまうのだ。今、スマホや働き方改革などで人と人との関係が希薄になっている。しかし、この曲のように日常の人と人の関わりが社会というものであり、その中に様々な喜びや悲しみがあるのだと思う。そして私たち大人は、優しく希望のある地域社会をちゃんと作らなくては、と思うのだ。

